

きずな

第26号

平成23年9月10日発行



8月5・6・7・8日



大網ひまわりネット 石巻の子ども達招待

3泊4日
東京ディズニーランドの旅

多くの方に
ご協力いただきました。
ありがとうございます。

大網ひまわりネットでは、石巻の湊小学校で避難生活をしている子ども達を中心に、十一家族三十一人をディズニーリゾートにご招待しました。

この会の代表である山田議員からは、長旅の労をねぎらい「これからの4日間は、今迄の分も楽しんで安心して過ごしてください」と挨拶があり、まちサポの黒川所長の乾杯の音頭で、ウエルカムパーティーが始まりました。このウエルカムパーティーには、当町の副町長と議長にもご出席いただき、ご挨拶を賜りました。また、これまでに石巻に出かけた方々も、子ども達へのプレゼントを持って集まってくださいました。

石巻の子ども達は、大里綜合管理会社様の宿舎に泊まり、六日に子ども平和コンサートを鑑賞した後、ディズニーシーへ、七日は終日ディズニーランドで楽しみました。八日は午前中にさよならパーティーを行い、一人一人感想を言った後、石巻湊小の校歌、他に手話付きで二曲の歌を披露してくれました。手話は、福島から避難してきた方に教わり、避難所では何もお返しが出来ないのを、せめて手話の歌で感謝の意を表したくてと、みんな練習をしてお返しにいつも歌っているそうです。そして、避難所では「さようなら」ではなく「行ってらっしゃい」の挨拶でお別れしていることを教わりました。だから、ここでも「行ってらっしゃい、また会いましょう」でお別れました。みんな、楽しい思い出が出来たと喜んで帰路につきました。

第4回子ども平和コンサート

8月6日

広島の平和式典と共に黙とう

大網白里子育て支援ネットワーク協議会が、子ども達に平和の大切さを知ってもらい、戦争を起ささない社会を後生に繋ぐため、毎年8月6日に行っている平和コンサートも今年で4年目になりました。毎年、戦争体験語り部の会の方から当時の事をお話してもらいますが、子どもはなかなか理解しづらく、どう伝えるかが毎年の課題になっていました。でも今年は、少しでも着実に子ども達の中に、平和に対する思いが根付き始めたように感じられたコンサートになりました。それは、コンサート前に行った原爆写真展と、そこに常駐していた戦争体験語り部の方々に、質問に答えてもらったお陰だったと思います。このコンサートは来年も行いますので、来年のコンサートを手伝ってくれる子どもたちを募集しています。まちサポまでご連絡ください。



大網白里まちづくりサポートセンター

被災地支援報告

8月31日 石巻から名取へ

まちサポ主催の被災地訪問三度目は、八月三十一日に行いました。

台風の影響が心配される中、石巻に向けて出発です。今回は、たまたまおでんの具材を提供してくれた方がいて、それを届けることと、先日大網に来られたときの写真を届ける事が目的です。

まだ石巻の湊小の避難所には一〇〇人弱の方が生活しています。仮設住宅がまだ決まらない方だけでなく、決まっても仮設住宅の完成が遅れていて入れない方もいるそうです。子ども達は一週間前に学校が始まり元気に通っているそうです。会えなかつたのですが、時々「大網楽しかったね」という話が出るそうです。大網で過ごした時の写真は、大網ひまわりネットで、フォトブックにして、十一家族分お渡ししました。早速広げて見ながら、思い出話に花が咲きました。そして、何と、子ども達とお母さんたちから、思い思いのメッセージを書いたハンカチを万国旗の様に繋げたもの、他にも子ども達から手作りの小物など、サプライズなプレゼントをいただきました。

仮設住宅に支援に入れるという思いからです。仮設に入ると、一人暮らしの方は急に寂しくなり引きこもりになりがちです。そんなとき、このメッセージカードを思いだし、電話をしてくれればと思っています。

まちサポでは、そんな繋がりをこれからも広げて行きたいと考えています。そこで第二弾として、地形が一番この町と似ている名取市と連絡を取りました。全員がアパートや仮設住宅に移り住んだという名取市では、仮設住宅の一つ美田園第一住宅の自治会長さんと連絡をとり、ここを午後から訪ねました。この自治会長さんは町の復興を七年で成し遂げようと、行政との交渉に粉骨を注いでいらつしやいました。自治会長さんもご家族を4人なくしてしまいました。そしてご自身は数秒の差で助かったそうです。みんな大変な思いの中で復興に向けて頑張つていらつしやいました。

以前訪ねた南三陸の歌津地区でもそうでしたが、リーダーになる方の考え方が、次にどうすべきなのか未来を見据えて、行政との交渉ごとを早々に進めていきました。ゆっくりしていると住民の中に不安が拡がり、町からどんどん人が流出してしまうから、その早さが住民の安心感に繋がっている、ということでした。

良きリーダーに良き未来構造、早めの行政との交渉が、早期復興の大切な要因であることは間違いありません。

仮設住宅に住み始めると、傾聴のボランティアの存在が必要になってきます。これからもまちサポでは、被災地に定期的に出かけようと考えています。



ちばのWA！基金で実施の、『被災地・被災者を支えるNPOへ寄付』の対象に、大網駅を安全で美しくする会が選ばれました。

被災地に向けて出ているボランティアバスの取り組みは、東日本大震災復興支援プロジェクト実行委員会による活動ですが、この会は『大網駅を安全で美しくする会』の代表を務める大野英雄さんら活動を起こしました。今では、日曜日以外でも、多くの方が被災地に出向くようになりました。そこで、

もっと多くの方から支援していただこうと、『大網と被災地の絆（きずな）プロジェクト』と題して、ちばのWA！基金を通じて寄付が集まるように考えてくれたのです。

被災地はまだまだ大変です。震災から半年も過ぎると、人々の記憶も薄れ気味になって来ています。先日も、まちサポを訪れた方が、支援物資を見てショックを受けていました。まだまだ、皆様の支援が必要です。ご支援・ご寄付をよろしくお願いいたします。

基金の詳細は、大里またはまちサポまで。

郷土の歴史-4

古山 豊(郷土史研究会会長)

「元禄の巨大地震と大津波」(第三話)

9月1日は防災の日である。申すまでもなく大正12(1923)年9月1日午前11時58分に発生した関東大震災の教訓を忘れない、という想いと、立春から数えて暦の上では二百十日に当たり、この時期に多い台風への心構えの意味を含めて昭和35年に制定されたものである。大正地震での死者は105,000人余りといわれている。千葉県内でも1,346人が倒壊家屋の下敷きや火災で罹災している。震源地は神奈川県平塚沖でM 7.9という巨大地震であった。震源地に近い北条町(現館山市)の場合、総戸数1,616戸のうち全壊1,502戸で、無事であった家屋は僅か四六戸にすぎなかった。館山町(現在館山市)の被害も甚大で、全壊・半壊・焼失家屋は93.6%と壊滅状態に等しかった。津波は相浜で9呎を観測。九十九里浜の津波被害は少なく、震災を通して山武郡全体でも死者1人というデータである。

しかし、元禄地震の場合は九十九里の津波被害は甚大であった。津波の様子を記した古文書が残されている。その一つに栗生村(現九十九里町)の大綱主飯高家に伝わる文書に「子ノ刻ヨリ、俄ニ大地震ニテ揺り返シ揺り返シ 表ニテ大タイコ打候如クニ鳴リヒビク、同丑ノ刻ニ大山ノ如ナル津浪二三ノ浪続イテ入来ル、別シテ二ノ浪強クシテ、家棟木共ニ押流サレ、大木ハ土手共ニ二三丁程モ流、逃人々之内ニテモ浪ニ追ツカレ、水ニ溺レ死スモノ脇村ハ格別、当所ニテ百人余也(以下略)」とある。飯高家も津波で浸水している。

文中の子の刻とは、午後11時から午前1時まで、丑の刻は午前1時から3時までをいう。また文中の一丁(町)とは、六〇間(約109呎)であるので、家屋などは2~300呎も流されたことがわかる。そして栗生村とその周辺(現九十九里町)では100人余りが亡くなっている。南隣の北今泉村(63

人)・四天木村(250人)の死者数に比べ、九十九里浜北部へ行くほど被害は少なくなっている。(つづく)

九十九里栗生の飯高家旧宅



先日、小学生間のメールで友人関係がおかしくなった話を聞いた。今どきの子ども達が携帯電話やパソコンを器用に使いこなしていることは知っていたが、その使い方に驚いた。当然、購入して毎月の支払いは親がしているわけだから、どういふわけで購入しているのか、何のために買い与えたのか問いただしたい衝動にかられた。

その話は、小学生だから携帯を持たない子供がいるのは当たり前のことだが、持っていない仲間外れにされそうだったので、仕方なく親の携帯を共有する事にした。常に持っているのは親だから、返事が遅くなるのは当然のこと。そして何より、親がメールの内容に驚いて、

お母さん、携帯のメールが来たよ

子どもに見せずにいたら、返事が遅いと友人からなじられる羽目になった。そこでメールを出した親に話をしたところ、携帯にロックを掛けてあるので、子どもの携帯を確認する事が出来ないからと言われたそう。小学生の子どもにも、ロックの出来る携帯が必要なのでしょうか。私は疑問に思った。何の為に携帯を持たせているのか。別の知り合いの子どもは、両親が共働きで日中おじいちゃんおばあちゃん二人で留守番している。おじいちゃんに何かあったらすぐにお母さんと連絡が出来るようにと携帯を持つことにしたこと。子どもも認識をしているので、それ以外には使わないそう。この子のように、携帯を持つ目的は何かを、きちんと話して合せて買うべきではないのでしょうか。

みんなで一緒に
ゆっくり
歩もう！

『ゆ～る
アクティブ』
を発足

障害者も、高齢者も、子育て世代も、みんなが一緒に過ごせる、誰もが気軽に集まれる、そんな居場所を目指して、居場所づくりの会が発足しました。

託児所・児童館・宅老所・支援施設等など、今迄はそれぞれの居場所を分けて考えて来ましたが、同じ社会に生きている仲間なのに分けるのはちよつと違うんじゃない？と考えると、こんな発想をしてみました。それぞれの世代が刺激し合い、ハンデがあっても一緒に助け合いながら日々を過ごせる所。これからの高齢化社会にむけて、一人でこもらないように、そして孤独死のない地域を作っていくように思い立ち上げました。

先日の初会合には、同じような思いのある方が十二人程集まり、自己紹介をしながら、それぞれが考えていることを出し合い、予定時間を超える意見交換をしました。

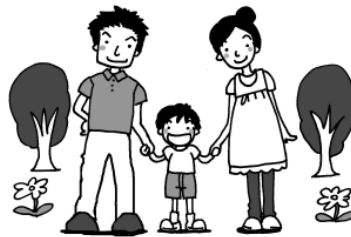
障害者の就労に繋がるようなこと、お年寄りの生きがいの作れる場所、子ども達が安心して帰れる場所、子

育て世代が安心して悩み相談出来る場所、そして小学校区単位で居場所作りをしたい、津波にも負けない避難所になる所など、課題は山積みですが、ゆっくり、みんなが納得できる形で、近い将来現実になる事を夢見て歩き出しました。

次回以降は、千葉大学大学院工学研究科の教授と研究室の学生さんも参加してくれることになっていきます。同じような考えの方、賛同して下さる方、一緒に歩き出しませんか？ご参加お待ちしております。

★定例会

毎月第2木曜日の三時～
まちサポにて



台風12号が大きな爪痕を残していきましました。大網白里町は、影響なく安堵しておりますが、被害にあわれた方や、関係者の方にはお見舞い申し上げます。

千葉県県民活動促進事業

「県民活動基盤強化事業」講習会のご案内

NPOの活動基盤を強化する講習会が開催されます。この講座を受講した所には、専門家による個別相談会が行われます。会計等で勉強したい方は、この機会に受講してみたいかがでしょうか。

10月11月の2ヶ月間に5回の講座

資料代 1回630円

会場 千葉市民会館

詳細はまちさぽにお問い合わせください。

申し込み用紙もまちサポにあります。

事務局から

毎週開かれていました木曜日のほっと・けーきサロンが、主催者の都合で月に1回だけになってしまいました。(第2木曜日の10時～15時)少し寂しいですが、そこで歌声サロンを10時～12時まで開催しようと事になりました。ここがご近所の方より所になればと思っています。そこで、第2の木曜に、ピアノやギターで伴奏して下さる方を探しています。どなたかお知り合いの方をご紹介ください。よろしくお願いいたします。



大網白里まちづくりサポートセンター

大網白里町大網 32-3
http://machisapo.net

TEL/FAX ; 0475-72-8278
E-mal:info@machisapo.net